

校長室より

第74号

「天空高き」



平成27年8月31日

暑かった夏も終わりましたが・・・さあ、2学期へ

今年の夏は猛暑でした。

全国大会には、空手道部・柔道部・女子ハンドボール部・水泳部・放送部が出場しました。

女子ハンドボール部は準々決勝で、優勝した高松商業に敗れましたが、見事に5位入賞。その活躍の様子は8月10日の山口新聞に次のように掲載されていました。

ハンド女子高水4強ならず！

全国高校総体（インターハイ）第9日は5日、近畿地区で10競技が行われ、山口県勢はハンドボール女子の高水が準々決勝で高松商（香川）に20-28で惜敗し、5位に終わった。

■「堅守速攻」対決で惜敗

大舞台で確かな成長の跡を示した。女子ハンドボールの高水は3回戦を突破し、8強入り。準々決勝で敗れ、「日本一を目指していた」（河本瑛里香主将）という選手たちは、悔しさを見せたが過去3年間で最も良い成績で大会を終えた。

前日の3回戦で名経大市邨（愛知）に勝利し、8強入り。準々決勝は「ヤマ場だと思っていた」（西本昌豊監督）という強豪・高松商（香川）との対戦になった。

相手は至近3年で2回の優勝を誇る強豪。高水と同様に堅守速攻を誇るチームに対し、立ち上がりは互角の戦いを見せるも試合は徐々に相手のペースとなっていく。

相手の速攻で点を取られると、攻撃では相手の堅い守りを崩せず、差が広がっていく。試合終盤に「思い切って攻めていった」という横田未来の連続得点で追いついたが、「堅守速攻」が持ち味のチーム同士の対戦は相手に軍配が上がった。

「良く頑張ってくれたが、相手の持ち味を出させてしまった」と西本監督。練習試合でも対戦経験がある相手で特徴は分かっていたが、「想定以上でした」（西本監督）と思った以上に壁は厚かった。3年連続の出場だが、過去2回は入賞には届いていな



かった。「全員で日本一を目指していたので」(横田)と悔しさは当然ある。それでも河本主将は涙を拭いた後に胸を張った。「悔いはないです」。

日本一を目指し、苛酷な日々を部員・監督・コーチは過ごしてきたことでしょう。嘗(かつ)て攻めダルマとして畏れられ、甲子園を沸かせた池田高校野球部篤文也(つたふみや)監督に色紙を書いてもらう機会がありました。一枚は「鍛錬千日之行勝負一瞬之行」。もう一枚は「一球入魂無他念」。私流に解釈させてもらおうと、(全国制覇のために高校3年間、野球一途に打ち込んできても、勝負は一瞬で決まってしまう。)だから、何も考えず、この一球に己のすべての魂を込めよ。)

高校3年間、ハンドボール一途に打ち込んできた河本主将の「悔いはないです」の一言は、何とも言えないすがすがしさを私達にもたらしてくれと同時に、松尾芭蕉のある言葉を思い出させてくれました。

それは、「過去の自分に飽きることだ」です。俳聖、松尾芭蕉は、俳諧上達の秘訣を聞かれ、そのように答えたそうです。その意味は、常に努力を重ねつつ、さらに新境地を切り開いていこうとするからこそ、そこに進歩があり、物事の根本、本質により近づけることができる、ということです。

女子ハンドボール部員の皆さんや同じく81kg級で5位に入賞した柔道部の赤尾君、また、自分の夢や目標に向かって、日々一生懸命に取り組んでいる皆さんに次の言葉を贈ります。

「人生は負けたら終わりなのではない。やめたら終わりなのだ」(アメリカ合衆国37代大統領 リチャード・ニクソン)

未来を怖れず、過去にとらわれず、今を、前向きに元気に楽しく生きることです。

台風15号が去り、秋の気配が漂ってきました。2学期がスタートしました。行事の多い学期でもあります。皆さんと明るく、元気に、楽しく、今を全力で生きていきたいと思います。



坂村真民

花は一瞬にして
咲くのではない。
花は一筋に咲くのだ。

花は一瞬にして
咲くのではない。
花は一筋に咲くのだ。

葉を繁らせ、成長して、
つぼみをつくり
花を咲かせ、
実をつくらう。

大地から芽から出て
葉をつくり、



本気 坂村真民

本気になると
世界が変わってくる。
自分が変わってくる。

変わってこなかったら、
まだ本気になっていない
証拠だ。

本気な恋、
本気な仕事。

ああ、人間一度はこいつを
つかまないとには。

チャレンジ — ワクワドキドキ生物教室 —

この夏休みの期間、久方ぶりに「ワクワクドキドキ生物教室」と銘打って、勝手に早朝の7時20分～8時5分に「生物基礎」の授業を開講しました。

それなりの準備をして、臨みましたが、授業内容は「ワクワクドキドキ」には遠く及ばず、「ハラハラドキドキ」の連続でした。高校2年生と理科教員が受講してくれましたが、大変申し訳なかった、という気持ちが先に立つような授業でした。



私が考える授業レベルは7段階あります。

- 1 レベル0 「崩壊した授業」：騒ぐ、教員の指導を聞かない生徒
- 2 レベル1 「成立していない授業」：寝ている、静かだが授業を聞いていない、ノートを取らない、教科書等を忘れる、提出物を出さない
- 3 レベル2 「作業する授業」：教員の指示に従い授業が進む、生徒は教員の話聞き、板書を写す
- 4 レベル3 「分かる授業」：生徒が理解できる、内容が分かる授業
- 5 レベル4 「学力のつく授業」：できるようになる、問題が解ける、模試の点数が上がる、大学受験に合格する
- 6 レベル5 「待ち遠しい授業」：常に新しい発見とワクワクドキドキ感がある授業
- 7 レベル6 「成長する授業」：知的な授業に触発されて生徒自らが学びはじめる授業

今回は、レベル5「待ち遠しい授業」を目指していましたが、しかし、自己評価すれば、レベル2～3でした。また、前期進学講座の11日間で終わるはずが、終わらず、後期進学講座に5日間延長してもらい、合計16日間になってしまいました。

授業力には3要素（人間性・授業スキル・教科専門性）が必要です。もう一度初心に帰り、学び直し、チャレンジしたいと思います。

21世紀を生きる — これからの職業は… —

現在、日本の職業の種類はどのくらいだと思いますか。

厚生労働省の職業分類によると、約2万8千の職業名があります。大正9年の国勢調査で国民から申告された職業は約3万5000種です。大正時代のほうが多様な職業の種類があり、職の多様性も高かったようです。

ところで、あるアメリカの学者の予測によれば、「2011年にアメリカの小学校に入学した子供たちの65%は、大学卒業後、今存在しない職業に就く」とされています。



これが何を言っているのでしょうか。

職業というのは、社会の変化や情勢に応じてどんどん変わってくるものであって、今ある職業に合わせて何かをやっていくのではなく、社会の変化に柔軟に対応して自分で課題を見つけて対応していけるような人間にならなければならないということです。

社会の変化はしばしば予想を超えます。どんな変化にも柔軟に果敢にチャレンジして、しなやかにそしてしたたかに生きていく力が必要です。

四角い頭を丸くする

猛暑の夏でヒートアップした頭を少し冷やしましょう！

S君は、ボールペンで線が引けるしゅみを調べたところ、ボールペンの先にある小さなボールが回転することによってインクを引き出していることがわかりました。問いに答えなさい。



- 問1** ボールペンは、紙には線を引くことができますが、透明なガラスの表面には線を引くことができません。紙とガラスでちがいが生じる理由を説明しなさい。
- 問2** かべにはった紙にボールペンで線を引いていると、線がとぎれてしまうことがあります。その理由を説明しなさい。
- 問3** ボールペンのインクは線を引くだけでなく、他にもボールペンにとってとても重要な役割をしています。それは何ですか。



出典：2006 年渋谷
教育学園渋谷中入
試問題より

二十四節気 処暑（しよしよ） 8月23日頃

半月ほど前に「立秋」を迎えましたが、まだまだ暑さが残っていました。しかし、それもうやくおさまり、吹く風にも涼しさが加わってきたようです。「処暑」は、暑さが止むという意味で、朝夕次第に冷気が加わってくる時季です。 【出典：ちょっと便利帳】

問1 紙はやわらかく、まさつによってボールが回転してインクが出るが、ガラスはかたく、すべりやすいので、ボールが回転しないから。

問2 ボールが下のほうにあるときは、インクの重さでボールのほうにインクが出るが、ペンが横向きになると、インクがボールのほうに出てこなくなるから。

問3 インクが潤滑油のように働き、ボールを回転しやすくしている。